

富山経済同友会
教育問題委員会

課外授業講師派遣制度 活動レポート'19～'20

富山経済同友会は、平成12年3月に発表した提言「家庭教育を見なおす～子どもと共に親も学ぶ～」において、会員による具体的行動の一つとして、課外授業の講師を学校現場に派遣し、積極的に児童生徒や教師の方々と交流・連携することを提唱しています。

このことが、人生の先輩として生き方や考え方を伝えるとともに、親の仕事の一端を知る機会ともなるものと考えています。

当会の会員有志（主に企業経営者）によるボランティアの活動です。

令和元年度及び2年度の活動レポートを通じて、最新の活動状況をお知らせいたします。

富山経済同友会「課外授業講師派遣」制度のご案内

「課外授業講師派遣」制度とは ...

富山経済同友会の会員有志（主に企業経営者）を、学校の課外授業や特別授業のゲスト講師としてご紹介する制度です。

どんな話が聞けるの？

当活動に賛同した当会の会員が、それぞれの得意とする分野についてお話しします。

たとえば……人生の先輩としての体験談、働くことや学ぶことの意味、職業観、人生観、夢を持つことの大切さ、これからの社会で必要となる力 など

どんな所に来てもらえるの？

主に小学校（高学年）、中学校、高等学校の課外授業や特別授業の講師としてお役に立ちたいと考えています。

※これまでの派遣実績や授業の様子などは、当会のホームページに掲載しています。
派遣依頼書の様式をダウンロードすることもできます。



富山経済同友会ホームページ <http://www.doyukai.org/>

留意点は？

- ・当会の会員有志によるボランティアの活動です。謝礼などのお気遣いは一切ご無用に願います。
- ・日程の調整が困難な場合など、ご要望にお応えできない場合もありますので、実施希望日まで余裕をもってご連絡ください。
- ・複数の講師をご希望の場合、ご要望どおりの人数をお受けできない場合もございます。
また、お申し込み内容によっては、お引き受けできない場合もございますので、ご了承ください。

【お問合せ・お申し込み方法】

ご質問、お申し込みは、随時受け付けています。

（お申し込みから授業実施までの流れは、次頁をご参考になしてください。）

〔連絡先〕 富山経済同友会 事務局

〒 930-0856 富山市牛島新町 5-5 インテックビル 4 階

tel. 076-444-0660 / fax. 076-444-0661

e-mail : doyukai@po.hitwave.or.jp

「課外授業講師派遣」の流れ

富山経済同友会の行う「課外授業講師派遣」について、お申し込みから授業実施までの流れを紹介します。

1 申し込みから調整まで

学 校 開催希望日の2～3カ月前までにお申し込みください。

事務局 ●学校の希望を踏まえ、講師登録会員の中から講師の調整を行います。
●講師が決まり次第、学校へ連絡します。

✎ 必要事項

○開催日時、会場、対象学年、人数、講演テーマなど、その他、ご要望があればお聞かせください。

2 事前準備

学 校 直接講師へ連絡し、授業内容、当日の流れ、資料や機材（パソコン、プロジェクター、スクリーンなど）の有無、集合時間など、事前に必要な打ち合わせを行ってください。

講 師 学校からの連絡を受け、当日の準備（資料作成など）を行います。

✎ お願い

○スケジュールその他、当初事務局に依頼された内容に変更が生じた場合は、速やかに講師および事務局にご連絡ください。

3 直前打ち合わせ(当日)

授業の前には、集合場所（校長室など）で、講師と進行の最終確認をお願いします。
校長先生など（学校側の責任者）から、学校や児童生徒の様子などもお伝えください。

✎ 授業の記録

○事務局職員が訪問し、記録のための写真撮影、録音、録画等をさせていただきます。授業の様子は、会報や活動レポートに掲載しますので、ご了承ください。

4 授業(当日)

各講師がそれぞれのスタイルで授業を実施します。

- 授業開始時に担当の先生から講師（会社名、役職など）をご紹介します。
- 終了時、児童生徒の代表から感想やお礼の言葉があればお伝えください。

5 授業終了後のお願い

授業終了後には、校長室などの控室にて、学校と講師双方で感想を述べ合う、意見交換の時間を設けてください。

✎ 感想文の提出

○授業終了後、児童生徒が感想文等を作成される場合は、講師（および事務局）にもご送付ください。
活動を続ける講師の励みになります。



富山経済同友会 課外授業講師派遣実績一覧【令和元年度～2年度】

(※敬称略。講師の役職等は派遣当時のもの)

令和元年度

No.	開催日	学 校・対 象	講 師	内 容
1	R1. 6.11 (火)	富山市立岩瀬中学校 全学年(300名)	遊道 義則 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「働くということ ～変化に対応して成長する習慣を身につけよう～」
2	R1. 6.12 (水)	南砺市立福光中学校 2学年(63名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「社会に生きる～働くことについて～」
3	R1. 7. 1 (月)	高岡市立牧野中学校 2学年(70名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
4	R1. 7.10 (水)	富山県立小杉高等学校 1学年(120名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「A I時代を生きる若者たちへ」
5	R1. 7.11 (木)	富山県立高岡商業高等学校 2学年(240名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
6	R1. 8.30 (金)	南砺市立平中学校 全学年(37名)、保護者	伊東 潤一郎 (アイティオ㈱ 取締役社長)	「働くことと幸せに生きること」
7	R1. 9. 4 (水)	高岡市立志貴野中学校 2学年(192名)	稲葉 伸一 (㈱三四五建築研究所 代表取締役)	「楽しく生きる」
			尾城 敬郎 (三菱商事㈱ 北陸支店長)	「夢は正夢」
			尾山 謙二郎 (マンパワーセキュリティ㈱ 代表取締役)	「生きる力」
			福崎 秀樹 (㈱フクール 代表取締役)	「A I時代を生きる」
			森 弘吉 (㈱エムダイヤ 代表取締役)	「人生楽ありや苦もあるさ」
8	R1. 9.11 (水)	富山市立山室中学校 2学年(206名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
9	R1. 9.13 (金)	黒部市立桜井中学校 2学年(131名)	伊東 潤一郎 (アイティオ㈱ 取締役社長)	「働くことと学ぶこと」
10	R1. 9.20 (金)	高岡市立戸出中学校 2学年(95名)	堀田 信一 (日本海ツーリスト㈱ 取締役社長)	「人生、プラス発想で」
11	R1. 9.28 (土)	富山県立魚津高等学校 1学年(160名)	山野 昌道 (㈱チューリップテレビ 取締役社長)	「自分の夢の見つけ方」
12	R1.11.11 (月)	富山県立高岡商業高等学校 2学年会計科(40名)	林 和夫 (朝日建設㈱ 取締役社長)	「生きること、学ぶこと、働くこと」
13	R1.11.27 (水)	砺波市立出町中学校 3学年(241名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
14	R1.11.29 (金)	富山県立富山高等支援学校 全学年(65名)	山野 昌道 (㈱チューリップテレビ 取締役社長)	「人生を幸せにする3つのコツ」

(14校18名)

令和 2 年度

No.	開催日	学 校・対 象	講 師	内 容
1	R2. 8.28 (金)	南砺市立平中学校 全学年(37名)、保護者	田村 元宏 (㈱タムラ設計、代表取締役)	「生きるために必要なこと」
2	R2. 9. 9 (水)	射水市立射北中学校 2 学年(118名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
3	R2. 9.26 (土)	富山県立魚津高等学校 1 学年(160名)	山野 昌道 (㈱チューリップテレビ 取締役社長)	「自分の夢のを見つけ方」
4	R2.10.14 (水)	富山県立小杉高等学校 1 学年(158名)	遊道 義則 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「目標と目的 ～一度の人生を幸せに生きるために～」
5	R2.10.20 (火)	富山県立高岡南高等学校 1 学年(41名)	小川 万里絵 (日本銀行 富山事務所長)	「金融経済における日本銀行の役割」
6	R2.11. 2 (月)	富山市立岩瀬中学校 全学年(301名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
7	R2.11. 4 (水)	滑川市立滑川中学校 2 学年(176名)	福崎 秀樹 (㈱フクール 代表取締役)	「AI 時代を生き抜く！」
8	R2.11. 9 (月)	氷見市立北部中学校 2 学年(108名)	高瀬 幸忠 (㈱スカイインテック 専務取締役)	「社会の一員として働くこと」
9	R2.11.11 (水)	高岡市立志貴野中学校 2 学年 (182 名)	市森 友明 (㈱新日本コンサルタント 取締役社長)	「学習の目的を知って努力を楽しくしよう」
			伊東 潤一郎 (アイティオ㈱ 取締役社長)	「働くことと幸せに生きること」
			上田 信和 (砺波工業㈱ 取締役社長)	「将来の夢は？」
			戸塚 健 (富士通㈱ 富山支店長)	「自分の弱さは武器になる」
			尾山 謙二郎 (マンパワーセキュリティ㈱ 代表取締役)	「生きる力」
10	R2.11.13 (金)	富山市立山室中学校 2 学年(197名)	遊道 義則 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「働くということ、生きるということ。 ～目標を達成する習慣をつけよう～」
11	R2.12. 2 (水)	富山市立北部中学校 1・2 学年(324名)	山野 昌道 (㈱チューリップテレビ 取締役社長)	「自分の夢のを見つけ方」
12	R2.12.18 (金)	富山県立富山高等支援学校 全学年(51名)	森藤 正浩 (正栄産業㈱ 代表取締役)	「よりよく生きる 働くとは」
13	R3. 2. 9 (火)	富山市立速星中学校 1 学年 (333 名)	遊道 義則 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「働くということ、生きるということ。 ～目標を達成する習慣をつけよう～」
14	R3. 2.18 (木)	氷見市立比美乃江小学校 5・6 学年 (129 名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よいチームの作り方 ～リーダーとフォロワーの在り方～」
15	R3. 3. 5 (金)	富山県立富山北部高等学校 1 学年 (239 名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「AI 時代によりよく生きる」

(15校19名)

教育講演等

令和元年度

No.	開催日	団 体 等	講 師	内 容
1	R1.7.26 (金)	小・中・県立学校3年次 校長研修会	中尾 哲雄 (株)アイザック 取締役相談役)	「働くということ」
2	R1.8.27 (火)	県立学校長研修会	上田 信和 (砺波工業(株) 取締役社長)	「中小企業における働き方」
3	R1.10.3 (木)	中・高進路指導研修会	山野 昌道 (株)チューリップテレビ 取締役社長)	「企業が求める人材、3つのポイント」
4	R1.11.13 (水)	高岡市小・中学校教務 主任会	福崎 秀樹 (株)フクール 代表取締役)	「AI化が進む社会で必要とされる人材」

令和2年度

No.	開催日	団 体 等	講 師	内 容
1	R2.4.28 (火)	富山市中堅教諭等資質 向上研修会	福崎 秀樹 (株)フクール 代表取締役)	「VUCA時代を生き抜く人財を育む」
2	R2.10.28 (水)	富山中堅教諭等資質 向上研修	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長)	「リーダーシップを解き明かす」
3	R2.11.10 (火)		寺下 利宏 (株)ソシオ 代表取締役)	「生存率2%の事業運営」
4	R2.2.18 (木)	氷見市立比美乃江小学校	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長)	「これからどのような子を育てていくべきか そのために学校・教師はどうあるべきか」

参考 課外授業講師／実施件数及び講師派遣人数

年度	小学校	中学校	高校等	計	講師
H13		3	3	6	11
14		1	4	5	7
15		4	6	10	14
16		4	8	12	15
17	3	9	8	20	24
18	1	8	5	14	20
19	1	9	4	14	16
20		12	4	16	16
21	2	9	3	14	14
22	2	11	3	16	17

年度	小学校	中学校	高校等	計	講師
H23	3	7	4	14	14
24	4	11	7	22	25
25	4	8	7	19	26
26	1	6	2	9	10
27	2	12	3	17	24
28	2	9	3	14	14
29	1	14	1	16	21
30	1	11	2	14	31
R 1		9	5	14	18
2	1	9	5	15	19
計	28	166	87	281	356

課外授業講師派遣 活動レポート

令和元年度

第1回 富山市立岩瀬中学校

令和元年6月11日(火)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長)が富山市立岩瀬中学校において、全学年300名を前に「働くということ ～変化に対応して成長する習慣を身につけよう～」をテーマに課外授業を行った。

遊道社長ははじめに、「世の中で役に立たない仕事というものはない」とし、「人の役に立てることに喜びやうれしさを感じ、これを働きたい、生きがいにすることを習慣化しよう」と説いた。

次に、哲学者フランシス・ベーコンの格言を引用して、「我々は言葉を使っていると考えがちだが、実は言葉に支配されている。だから、何気なく使っている言葉がとても大切である」とし、「自分の願望を実現するためには、これを明確な言葉にして周りと共有し、『正直』に『集中』すべきである」と言葉の不思議さと大切さについて語った。

続けて、「変化」と「成長」について触れ、人生においては常に変化がおこるものであり人はそれをストレスと感

じるが、変化を恐れるのではなく自分自身をアップグレードできる「ワクワク、ドキドキするもの」と位置付けることが「成長」であると述べた。

そして、「目標」と「目的」の違いやその意義を説明したうえで、全ての「結果(have)」は、「ある行動(do)」によってもたらされ、その「行動のあり方(be)」の影響を強く受けるとし、常に「あり方」を念頭に置き、問い直すことが重要であると強調した。

最後に、行動することの大切さ、挑戦により自分のパターンを超えること、言い訳をせず責任をとること、協力して周りと共に成長することなど、自分自身を成長させるキーワードを紹介して講演を締めくくった。



「大切なのは『やる』ということ！」と遊道社長

第2回 南砺市立福光中学校

令和元年6月12日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組 取締役社長)が南砺市立福光中学校において、2学年63名を前に「社会に生きる ～働くことについて～」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、「働くことは楽しいものか？働く目的は何か？」と生徒たちに問いかけ、それを自分自身で考えることが大切だと語った。次に、かつて数多く存在した「八百屋」が、複数の業種が集まった「スーパー」に変化していった理由を例に、社会では「便利さ」が求められており、「便利さ」とはつまり「役に立つ」ということであると説いた。

続いて、人は働くことで「役に立ち」、会社から金銭を受け取っているが、「役に立つ」ことで「やりがい」も得ていると述べる一方、生徒たちは身近な人が何に「やりがい」をもって働いているのかを知らない指摘。「『やりがい』というものは、表に出にくいものである。まずは身

近な人たちのそれを知って、自分自身で働く意義を考えてほしい」と訴えた。

最後に、「私たちの社会には、『人』と『人』の間に『間』がある。この『人』と『人』、つまり、自分と他人との関係をよくするには、理性と本能のバランスが大切である。人に嫌われるのは、いわゆる『自己中心的』な人である。人を思いやる心よりも、わがままな心が大きくなると、必ず人間関係に悪影響を及ぼす。人は一人で仕事はできず、働く上では必ず誰かに助けってもらわないといけない。人と人の関係をよくするために、思いやりの心を持ち、周りを見て行動してほしい。」と14歳の挑戦を控える生徒たちに熱いメッセージを送った。



「家族に働くことの意義を聞いてみよう」と牧田社長

第3回 高岡市立牧野中学校

令和元年7月1日(月)、牧田和樹氏(株)牧田組 取締役社長)が高岡市立牧野中学校において、2学年70名を前に「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、人間関係とは自分とそれ以外のひととの関係であり、時間と空間を共有することであると語った。そして、人間関係をよくするために「思いやりをもつ」ことが一番大切であると生徒たちに語った。

そして、「思いやりをもつ」ということは、相手のことを思って行動するということであり、「相手のことを考えて行動しているか」と生徒たちに問いかけ、人間関係が悪くなった場合でも、思いやりをもっていれば解決への糸口になるが、自分本位な思いやりや自分の気持ちを押し込めることは、思いやりではないと語った。さらに、自分と相手との距離を少しずつ縮めお互いに歩み寄るためには、自分のものさしで相手を計るのではなく、相手を思った言動をするようにと強調した。

質疑応答では、相手を好意的に理解するためにどうすればよいかという質問に対して、相手をよく見ることだと答

え、相手の様子を注意深く見ることで気づくことがあり、そのことが相手への思いやりにつながると説明した。また、思いやりとは何かという質問に対しては、自分のわがままを極力抑えることだと語った。人間の心は自分のことと相手のことを考える2つに分かれるが、その割合は常に変動しており、相手への思いをコントロールすることはできないが、自分のわがまは自分次第で制御できる。相手への気持ちを大きくするために、今の言動は自分本位になっていないかと自問自答することが重要であると説明した。

最後に、今後14歳の挑戦を体験する生徒に対し、ぜひ人を思いやることを忘れずに、多くの人と関わってほしいと激励して授業を締めくくった。



「相手の様子をみるのが思いやりにつながる」と牧田社長

第4回 富山県立小杉高等学校

令和元年7月10日(水)、牧田和樹氏(株牧田組 取締役社長)が富山県立小杉高等学校において、1学年120名を前に「AI時代を生きる若者たちへ」をテーマに課外授業を行った。

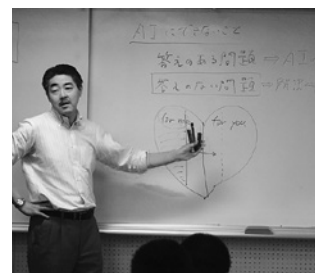
はじめに牧田社長は、市販の商品を例にあげ、消費者がその商品を購入するのは必ず理由があり、すべての企業はカスタマーの利便性・ニーズに合わせた商品づくりをしているという社会の仕組みがあると説明した。

そして、近年AIの発達により、ネット通販を利用する際に、記録されている過去の検索や購買の情報をもとに自動的に購入した商品に関連する商品が提案される仕組みができていることを紹介、現在ではAIは人間の頭脳を代替し、社会の仕組みを担っていると説いた。

「AIが発達することによって50%の職業がなくなると言われる世の中で、これからどう生きるべきか」について、AIは数学などの「答えのある問題」を解くことができるが、人間社会で価値観の相違から答えのない問題が生じた時に

その問題を解くことはできないとし、AIにできないことをする力が必要であると強調した。そのためには「知識」や「物事の本質を見極める力」が必要不可欠であるとし、さらに会社に入った時には会社の役に立とうとしなければならないと語り、その時に役に立つために体力・精神力・知力を鍛えることは、自分の成長として返ってくる。人のためになる行動をするためには、わがまま・自己中心的な気持ちを抑えることで、コントロールできると強調した。

最後に、「AIには解くことのできない、答えのない問題を解けるようになって欲しい」と激励して授業を締めくくった。



「for me for youのコントロールが大切」と牧田社長

第5回 富山県立高岡商業高等学校

令和元年7月11日(木)、牧田和樹氏(株牧田組 取締役社長)が富山県立高岡商業高等学校において、2学年240名を前に「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、異なるメーカーの同種の2つの製品を提示し、それぞれの製品について比較させ、どちらの製品を魅力的に思うか、また、どうしてそう思うかを問いつけたうえで、「普段何気なく目にしたり手にしたりする物の背景には、いろんな思いや考えがある。企業は多くの人に製品を届けるにはどうすればよいかを考えているが、そのためには人の役に立つものでなければならない。人の役に立つことができないと企業は存続できない。このために企業はいろいろなことを考えている」と述べた。

そして、社会に出て働くときにはこうした人の役に立つということを念頭に置かなければならないと説いた。

続けて、人間社会での問題は人と人との間で異なる思いを持った心や価値観がぶつかるために起きるとしたうえ

で、それを解決するためには「なぜそうなのか」と問いかけ、AIにはできない人間としての思いやりをもった対話をする中で物事の本質を探り出し、知識を総動員させてつなぎ合わせることが鍵であり、こうして答えのない問題を解くことができ、必要とされ、お客様に求められ、利益を生み、よりよく生きることができると強調した。

最後に、こうしたことの基礎となる知識を得る方法が毎日の勉強であると説き、人々の持つ感情や人間関係の大切さを理解して、よりよく生きてほしいと激励して授業を締めくくった。



「なぜ」と問いかけて物事の本質を探り出そう」と牧田社長

第6回 南砺市立平中学校

令和元年8月30日(金)、伊東潤一郎氏(アイティオ(株) 取締役社長)が南砺市立平中学校において、全校生徒37名とその保護者36名を前に「働くことと幸せに生きること」をテーマに課外授業を行った。



「幸せに生きるために必要なことは何かを考えよう」と伊東社長

伊東社長ははじめに、缶飲料の飲み口が便利さや安全など飲む人のことを考えて作られていることを紹介し、日常生活における何気ないことであっても、その背景にはいろいろなことが考えられていると語った。

続けて、企業にとってはお金を儲けることも大事であるが、それ以上に大切なのは世の中にいる全ての人を幸せにすることであり、そのために企業が存在しているのであり働くということで大切

なのは人に喜んでもらうことであると述べた。

そして、人は自分に良いことがあった時にはうれしさを感じるが、それよりも他人に喜んでもらった時にも嬉しさを感じる、人に喜んでもらえれば必ず自分にかえってくると説いた。

さらに、中学生は人生を豊かに生きるための準備期間であり、そのためにも勉強が必要であるとし、これからの人生を生きるうえで戻ることのできない分岐点に遭遇するが、その時の選択肢を増やし正しく判断するためにも、日常生活のいろいろなことに好奇心を持って経験することが大切であると述べるとともに、保護者に対し、何故勉強しなければならないかということの本質を正しく教えるのが大人の役目であると強調した。

最後に、「成功」という言葉の反対は「失敗」ではなく何もしないことであるとし、「何もしないと成功も失敗もない。幸せになるために何か行動しよう」と呼びかけて授業を締めくくった。

第7回 高岡市立志貴野中学校

令和元年9月4日(水)、稲葉伸一氏(株三四五建築研究所代表取締役)が高岡市立志貴野中学校において、2年1組39名を前に「楽しく生きる」をテーマに課外授業を行った。

稲葉代表ははじめに、プロフェッショナルとはどういうことかを生徒に問いかけた。プロ野球を例に挙げ、ただ野球をするのではなくお客様に感動を与えることが大切であるとし、企業が投資するのは人の心を動かすことに対してであると述べた。

続けて、「社会に出ると2秒でその印象が決まる、そこで大切なことが挨拶と時間を守ることである。その割合は挨拶が50点、時間を守ることが40点であり、あとの10点は身だしなみだったり、印象だったりする」とし、このことを意識していくよう説いた。

次に、「建築というのは頭の中のイメージをカタチにする仕事。それが、人のためになっているか、何の目的で建

てるのか、カッコいいか、などのこだわりを持ち、お客様の納得のいく商品でなければ意味のない仕事であり、それが「やりがい」につながる」と語った。

最後に、これからの人生で大切にしたいこととして、たくさん引き出しを持つことを挙げ、「新しいことにチャレンジをすることでその引き出しを増やすきっかけになる。経験の有無というものは大きな違い。」と経験することの大切さを説くとともに、「日々の努力が人生を変え、楽しく生きることにつながる」と強調して授業を締めくくった。



日々自己ベストを更新し続けたいと稲葉代表

令和元年9月4日(水)、尾城敬郎氏(三菱商事株北陸支店長)が高岡市立志貴野中学校において、2年2組39名を前に「夢は正夢」をテーマに課外授業を行った。

尾城支店長ははじめに、友人を大切にすることの必要性を挙げ、「卒業証書は紙だから、いつかは破れて無くなってしまふかもしれないが、学校生活で得られた仲間は一生の宝だ」とし、一緒に過ごす仲間を大切にしてほしいと語った。

続けて、「社会に出ると様々な困難に直面する」としたうえで、「いくつ乗り越えられるかでどれだけ成長できるか決まる。そのためには異なるものを認め合い、調整しながら自分の言いたいことも伝えられるようにしていく必要がある。それができれば、周りの人と協力してどんな困難も乗り越えて成長できる。」と述べた。そして、スポーツ界で活躍している何人かの人の言葉を紹介し、これまで素晴らしい功績を残している人たちも、努力を重ねて困難を乗り越えてきたのだと強調した。

さらに、組織に貢献することの大切さをアメリカの学校における成績評価がクラスへの貢献度によって決まることを挙げて説明するとともに、自身のサッカーでの経験にも触れて誰かをフォローしたりアシストしたりすることが今後の社会ではとても大切になってくるとし、「チームのために何ができるかという意識を持ってほしい」と説いた。

最後に、自分に合う仕事を選ぶにあたり好きなことややりたいことを探して行ってほしいと激励して授業を締めくくった。



時には周りに助けをもらうことも大切と尾城支店長

令和元年9月4日(水)、尾山謙二郎氏(マンパワーセキュリティ(株)代表取締役)が高岡市立志貴野中学校において、2年3組37名を前に「生きる力」をテーマに課外授業を行った。

尾山代表ははじめに、人は夢を持っていろいろなことに挑戦するが上手くいかないことも多いとしたうえで、夢を叶えるには前向きに考えることが大切であり、夢を口に出して取り組み、継続することが必要であると説いた。さらに、挑戦しても成功するとは限らないが、成長が必ずある、成功は成長の先にしかないとした。

挑戦して失敗した時は、自分も含めた誰かや何かのせいにしてしまいがちだが、これでは何も生まれないと述べ、失敗を客観的に見るのが大事であり、そうすればそこに前進する道があると語った。

失敗や挫折を経験したことがないというのは、何にも挑戦したことがないということであり、多くの挫折を味わい、涙を流し、そこから学べるような素敵な時間を過ごしても

らいたいと述べた。

14歳の挑戦に向けての言葉として、「仕事に貴賤はなく、貴い、賤しいがあるとすればそれは取り組む人の心の中にある」と語り、どんな些細なことであっても相手の状況や気持ちを考える工夫することが大切だと伝えた。

最後に、「日本にはこれまで信念をもって生き尊敬されている人が沢山いる。こうした歴史を学んで誇りを持ち、色んなことにチャレンジしてもらいたい」とエールを送り授業を締めくくった。



一歩踏み出せば人生を変える出会いがあると尾山代表

令和元年9月4日(水)、福崎秀樹氏(株)フクール代表取締役)が高岡市立志貴野中学校において、2年4組39名を前に「AI時代を生きる」をテーマに課外授業を行った。

福崎代表ははじめに、科学技術が指数関数的に成長していることを実例を挙げて紹介し遠くない将来にA Iが人間を超える時代がやってくることを説明するとともに、現在の小学生の65%が今存在していない職業に就くという予測や将来49%の仕事がA Iで代替可能という研究結果に触れて、今後社会が求める人材は「チームワークを重んじ、言われたことを指示通りに行う人」から「自ら考えてリーダーシップを発揮できる人」に変化してきていると述べた。

次に、将来の夢について考えるとき、それは具体的な職業である必要はない、「失敗を失敗だと思わず新しい未来が開いていると考えることで人生に失敗なし」と考えることができるとし、「なりたい自分になる」ことも立派な夢

の1つであると語った。

そして、「14歳の挑戦」で学んできてほしいこととして、礼儀やマナーだけではなく、「人との関わり」「考える(知る、思うではなく、新しい何かをみつける)こと」「社会(大人)を知ること」「自分を知ること」の4つを挙げ、職業を知るだけではなく、生き方や人としてのあり方を見てきてほしいと強調した。

最後に、「常の勝利は現在なり」という自身の好きな言葉を紹介し、「今生きている1日1日を大切に」と激励して、授業を締めくくった。



未来は自分の力で変えられると福崎代表

令和元年9月4日(水)、森弘吉氏(株)エムダイヤ代表取締役)が高岡市立志貴野中学校において、2年5組38名を前に「人生楽ありや苦もあるさ」をテーマに課外授業を行った。

森代表ははじめに、水戸黄門の主題歌「ああ人生に涙あり」を流してクラスの雰囲気を和ませると、14歳の挑戦におけるアドバイスとして「大きな声で挨拶と返事」「元氣と笑顔」「素直」という3点を挙げた。

次に、過去に経験した苦難の中でも手を貸してくれた友人がいたことや会社経営において他の経営者と交流したことに触れ、人生においては人とのつながりが非常に大切であると述べた。そして、「ほめられること」「人の役に立つこと」「人に必要とされること」「人に愛されること」が「究極の幸せ」であり、「功は人に譲れ」「恩は胸に刻め」「憎は水に流せ」ができる人が「素晴らしい人」であると語った。

また、稲盛和雄氏が提唱している成功＝能力×熱意×考え方という式を紹介し、「考え方」によって結果が変わってくるので、「考え方」の部分を大切にし、いろいろな人の考えを理解しようとして欲しいと述べるとともに、

過去の実績にもとづく「信用」よりも未来に向けての「信頼」をされる人になって欲しいと強調した。

最後に、「日本の常識は世界の非常識であること」「失敗の先に成功がある」「知識と経験の両輪で知恵が生まれる」「生涯、学びである」と激励のメッセージを送り、授業を締めくくった。



異なる価値観を理解することが重要と森代表

第8回 富山市立山室中学校

令和元年9月11日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が富山市立山室中学校において、2学年206名を前に「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、「働くこと」についてどんなイメージを持っているかを生徒に問いかけた。「面倒」「きつそう」「自由がなさそう」などという声が聞かれると、「働くことは楽しくないというマイナスのイメージを持っている人が多いようだが、人は誰もがいずれは働かなければならない。こうしたイメージを持っていると、楽しくないことをしなければならないことになり、未来は暗い」と述べた。

次に「会社」「客」「社員」の関係を図で示したうえで、「会社は高品質のサービスを提供して客の支持を得る。社員は会社の役に立つ働きをして給料をもらう。この流れがどこかで滞ると会社はつぶれる」とし、「役に立とうとする意識を持つということが働くことの原点だ」と説いた。

さらに、社会では求められる役割に対して前向きな姿勢・積極的な気持ちで取り組むこと、自分の仕事以外にも関心を持つとともに相手が望むことを自分で考えて行動することが重要であるとし、「14歳の挑戦」ではこうしたことを学ぶことが大切であると強調した。

最後に、「時間は全ての人に平等に与えられているが、今この瞬間にも時間は過ぎている。1分、1秒を無駄にせず、有効に使おう」と激励して授業を締めくくった。



常に周りを見て動くということをも身につけようと牧田社長

第9回 黒部市立桜井中学校

令和元年9月13日(金)、伊東潤一郎氏(アイティオ㈱取締役社長)が黒部市立桜井中学校において、2学年131名を前に「働くことと学ぶこと」をテーマに課外授業を行った。

伊東社長ははじめに、桜井中学校が来年度に宇奈月中学校と統合することを踏まえ「学校が統合することでどんな気持ちか」と問いかけた。生徒から「一緒に学ぶ友人が増えるのは楽しみだが、今まで違う学校で勉強してきた人と一緒になることに不安な点もある」との答えがあると、「新しくこの校舎に通うことになる宇奈月中学校の生徒の身になって考えてみよう」と呼びかけ、相手を思いやることの大切さを説いた。そして、働くことにおいても大事なのは相手の気持ちになって考えることであると述べた。

続けて、「人間は誰もが今日より明日の方が良くなる、幸せになれると考えて行動している」とし、「幸せに生き

るためにはいろいろなことに挑戦することが大切。成功の反対は失敗ではなく何もしないことである」と強調した。

最後に、人生を24時間に例えると中学生は1日の活動をするための準備をしている時間帯であるとしたうえで、「目の前にある課題は先送りすることはできても逃げ切ることはいできない。嫌でも立ち向かわなければならない時が来る。そうした時に多くの選択肢を得て、正確に判断することができるよう、一生懸命勉強してほしい」と激励して授業を締めくくった。



人は幸せになるために生きて
いると伊東社長

第10回 高岡市立戸出中学校

令和元年9月20日(金)、堀田信一氏(日本海ツーリスト㈱取締役社長)が高岡市立戸出中学校において、2学年95名を前に「人生、プラス発想で」をテーマに課外授業を行った。

堀田社長ははじめに、好きな言葉は詩人相田みつを氏の「一生勉強 一生青春」であり、好きな著書は長谷川和廣氏の「社長のノート」だと話した。「社長のノート」にはプロの仕事人になるには、5つの必要条件(やる気・専門能力・調整能力・人望・健康)と3つの十分条件(自分で考え仕事を楽しくでやること、苦労の経験を積むこと、成功体験を積み重ね努力をすること)を満たすことだと書いてある。同感であり、仕事の過程で壁にぶつかっても楽しみながら仕事をし、成功体験を積み重ねる努力をしていくことが大切だと語った。

次に、人生、プラス発想でいろいろなことにチャレンジしていく積極性が必要であると主張。「伸びる人の共通

点」として、①目標を張り出す、②プラス発想、③学習のみならずスポーツ・芸術文化にも勉強熱心、④素直な心、⑤みんなのために尽くすことの5点を挙げた。

さらに、人間は一人では成長できず、人から学ばなければならないこと、また、目標を達成するヒントとしては「才能より、努力の継続」であり、生徒たちに継続して努力をすることの大切さを説いた。

最後に、「いろいろなことに好奇心を持ち、一回きりの人生を充実したものにしてほしい」とエールを送り、講演を締めくくった。



プラス発想でチャレンジと呼
びかける堀田社長

第11回 富山県立魚津高等学校

令和元年9月28日(土)、山野昌道氏(㈱チューリップテレビ取締役社長)が富山県立魚津高等学校において、1学年160名を前に「自分の夢の見つけ方」をテーマに課外授業を行った。

山野社長ははじめに、「なぜ働かなければならないのか」を生徒に問いかけ、続けて「皆さんはいずれ社会人になる。社会はみんなで作るものであり、そこでは何らかの役割を果たさなければならない。これが働くということではないかと思う」と話した。

そして、どのような役割を担っていくかについては、自分が何に向いているか、何をしたいのかと考えることになるが、これは簡単なことではないとしつつも、「分からなくても良い。ただ、目の前のことを一生懸命やって行こう」と説いた。

さらに、苦しい思いをしながらも努力することが、感動そのものであり、「やりがい」ということであるとし、これは人から与えられるものでなく、自分で作りあげるものだと語った。

また、人生を楽しむためには、行動することが大切であるとし、「いろいろと悩むこともあるが、行動すれば思ってもみなかったことが起きる可能性がある。やってみないと分からない。面白いことは自分で探そう」と述べた。

最後に、自分の夢の見つけ方として「知識を得る」「大人に聞く」「やってみる」「目の前のことに真剣に取り組む」ことが大切であるとし、「これからいろいろと選択に迷うことがあると思うが、どちらを選んだ方が正しいのかは一生分からない。大事なのはこれを選んでよかったと思えるようにその後の自分の行動で作っていくことである」と強調して講演を締めくくった。



一歩踏み出せば見える景色も
変わると山野社長

第12回 富山県立高岡商業高等学校

令和元年11月11日(月)、林和夫氏(朝日建設(株)取締役社長)が富山県立高岡商業高等学校において、2学年会計科40名を前に「生きること、学ぶこと、働くこと」をテーマに課外授業を行った。

林社長ははじめに、ある看護師の発した「人間が生きているのには必ず意味がある」という言葉に感銘を受けたことを紹介した後、アンパンマンマーチの「何のために生まれて 何をして 生きるのか 答えられないなんて そんなのはいやだ」の歌詞の持つ意味について問いかけ、さらに中村天風氏の「ばい菌一匹でも、目的無くこの世に出てきたものは無い」、日野原重明先生の「いのちは時間。時間を使うことでいのちが形になる」という言葉を挙げて、「生きること」の本質について説いた。

続けて、自身の大学時代を振り返り柔道ばかりやっていた勉強はしなかったが読書はたくさんしたということに触

れ、読書は頭の栄養になると語った。また、“philosophy”(哲学)という言葉は“philo”(愛する)と“sophy”(知ること)から成り立っているとし、なぜ知ることを愛するのか、それは、よりよく生きるためによく知ることが必要であるからだと言った。

最後に、「働くこと」は世の中の役に立つことであり、時間(いのち)を世のため人のために有意義に使うことによって自分も有意義に生きることができると強調して授業を締めくくった。



「よりよく生きるためにたくさん本を読もう」と林社長

第13回 砺波市立出町中学校

令和元年11月27日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組 取締役社長)が砺波市立出町中学校において、3学年241名を前に「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、今後A Iが社会の様々な領域で活躍する時代になり、従来の仕事の内容が大きく変わるが、重要なのは将来自分が就く仕事をどのように選択するか、仕事をするうえでどんな力が求められるかを考えることであり、人の心や感情に関わること、人と人との間を取り持つことは人間にしかできないという視点を持つことが必要であると述べた。

人と人との関係においては、異なる意見や価値観を調整し互いが満足し納得できるようにすることが求められるが、そうした時に必要なのは、相手の話を聴いてその背景を知るとともに自分の思いをしっかりと伝えるという対話であ

ると説いた。

さらに、そのためには、なぜ相手はそう思うのか、どうしたら自分の思いを相手に正しく伝えることができるかという「思いやり」を持つことが必要であり、これこそが来るべきA I時代への対処であると強調した。

最後に、絶対やってほしいこととして、計算する力をつけること、文章を読む力をつけることの2点を挙げるとともに、重ねてよりよく生きるうえでのベースは「思いやり」であると強調して授業を締めくくった。



「正解のない問題を解くヒントは『思いやり』」と牧田社長

第14回 富山県立富山高等支援学校

令和元年11月29日(金)、山野昌道氏(株)チューリップテレビ取締役社長)が富山県立富山高等支援学校において、全学年65名を前に「人生を幸せにする3つのコツ」をテーマに課外授業を行った。

山野社長ははじめに、「今日は将来について、どのように生ければ幸せになれるのかについて考える時間にしよう」と呼びかけた。

次に、将来自分がどんな仕事をしたいのかということとは変化していくものであり、たとえ今の時点でそれが分からなくても問題はないとし、大事なことはいろんなことを考えたり試したりして一生懸命に生きることであると説いた。

また、努力しても成功するとは限らないが成功するには努力が必要であるとし、物事のやり甲斐というのは自ら作り上げていくものであり、こうした時の辛く厳しい経験が感動に繋がっていくと強調した。

さらに、未来は今日1日の積み重ねであり、未来を充実したものにするには充実した今日を過ごさなければならぬとし、面白いことは誰かが与えてくれるのではなく自ら行動して見つけていくものであると言った。

最後に、「迷ったらやる」「人のせいにしない」「前向きに考える」ことが人生を幸せにする3つのコツであるとし、日々の生活を思いやりの心と笑顔の力で過ごすように激励して授業を締めくくった。



「笑顔と努力を積み上げて頑張ろう」と山野社長

第1回 南砺市立平中学校

令和2年8月28日(金)、田村元宏氏(株)タムラ設計、代表取締役)が南砺市立平中学校において、全校生徒37名とその保護者33名を前に「生きるために必要なこと」をテーマに課外授業を行った。

田村代表ははじめに、どんな環境に置かれても、自分の人生の主人公として生きることが大切であるとし、心から幸せと感ずること、希望を持って生きることが「人生の主人公になる」ということではないかと語りかけた。

次に、今、私たちは大きな変化の時代に生きているが、どんな環境でも生き抜く力を身につけることが大切であり、いつの時代も生き残ることができるのは、変化できる人であると説明。一方で、大きく環境が変わっても変えてはいけなものは、感謝と思いやりの考え方であり、ありがとうという感謝の気持ちで今を生きていることが幸せにつながる。また、「働く」とは「傍」を「楽にすること」であり、自分の周りの人を幸せにするために生きることが大切であると説いた。

そして、「ありがとう」の反対語は「あたりまえ」であり、身近にあるものが決して当たり前ではないということに気づくことによって、今を感謝して生きることができるとし、そのためには、相手に興味を持ち、相手の喜ぶことを考えることが大切であると、アンパンマンマーチの歌詞に触れながら説明した。

最後に、マザーテレサの言葉を紹介し、日々の言葉や行動が自分の性格となり、人生を決める運命となる。日々の生活の中で感謝と思いやりの気持ちを原点とし、どんな環境においても、しっかりと今を大切に生きてほしいと述べ、授業を締めくくった。



「感謝と思いやりが大切」と田村代表

第2回 射水市立射北中学校

令和2年9月9日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が射水市立射北中学校において、2学年118名を前に「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、世の中には「正解がある問題」と「正解がない問題」の二つがあることを説明し、社会に出ると正解がない問題を解いていかなければいけないが、正解がない問題でも、現実と向き合い、目的を明確に持つことで解決することができる。人のため、相手の立場に立つて考えることが大事であると説いた。

さらに、問題を解決すると嬉しいと感じるのはなぜかと問いかけ、それはできなかったことができるようになることで、自分が成長していると感じたからであり、成長を実感できれば嬉しくなると説明した。

そして、「働く」とは「傍を楽にする」ために人が動くことであり、人の役に立つということ。人の役に立てば嬉しい

と感じる。つまり、働くことは自身の成長につながる。とし、「何のために働くのか」といえば、「自分が成長するため」であり、成長を感じられるからこそ、人生は楽しく、豊かになると語った。

最後に、自分の立場でしか考えない人は、正解がない問題を解決することはできない。自分のためではなく人の役に立つという目的を持つことで、自分の成長を実感でき、人生を豊かにすることができる。それが「よりよく生きる」ということだ、と強調して授業を締めくくった。



「人の役に立つことで成長を実感できる」と牧田社長

第3回 富山県立魚津高等学校

令和2年9月26日(土)、山野昌道氏(株)チューリップテレビ取締役社長)が富山県立魚津高等学校において、1学年160名を前に「自分の夢の見つけ方」をテーマに課外授業を行った。

山野社長ははじめに、「なぜ働かなければならないのか」について、「社会は皆で作るものであり、何らかの役割を分担しなければならぬ。社会を作っていく一員になることが働くということである」と説いた。

続けて、本当の自分や自分のやりたいことは簡単には分からないし、夢もどんどん変わっていく。それでも何かを見つけないと思ったら、「考え続け、行動し続けるしかない。そうして、一日一日を一生懸命に生きることが大切である」と語った。

さらに、厳しさや苦労のないところにやりがいはない。苦労や努力こそがやりがいであり感動そのもの。やりがいは自分で作るものであり、そのためには夢や目標が必要で

あるとし、「何かを達成したいのであれば努力するしかない」と強調した。

最後に、人生を幸せにする3つのコツ「迷ったらやる」「人のせいにしない」「ポジティブシンキング」を紹介したうえで、選択に迷った時、どちらが正しかったかは一生分からない。その後の自分の生き方で選んだ方を正解にしていくことが大切であるとし、「未来は今日一日の積み重ねであり、充実した未来のために充実した今日を過ごしてほしい」と激励して授業を締めくくった。



「目の前のことに真剣に取り組もう」と山野社長

第4回 富山県立小杉高等学校

令和2年10月14日(水)、遊道義則氏(株ユニオンランチ取締役社長)が富山県立小杉高等学校において、1学年158名を前に「目標と目的～一度の人生を幸せに生きるために～」をテーマに課外授業を行った。

遊道社長ははじめに、「言葉」の不思議さと大切さに触れ、我々は自分の言葉を統御していると考えているが、実は言葉によって支配され統御されているとし、自分の意図や取り組み、目標を明確にし、言葉で伝えることが重要であると語った。

次に、人生とは常に何かを選択しながら、自己実現を図り幸福を追求し続けるものであり、その中で自分自身を成長させていくことが必要である。卑下、現状満足、傲然など、成長を妨げるものを取り払い、自分の可能性を信じて、挑戦することで幸せに近づけると説いた。

そして、「目標は達成するもの」「目的は追求するもの」

と違いを説明したうえで、全ての結果(Have)は、ある行動(Do)によってもたらされ、その行動はあり方(Be)の影響を強く受けるとし、目標を達成することも重要だが、常に「誰のために、何のために」という目的を意識することが大切であると強調した。

最後に、自分の人生、誰も何もしてくれない。自分が自分に何をしてあげられるかを考えてほしいとし、「これからの人生は選択の連続であり、選択肢も増える。目標と目的を積み重ね、自分で自分の人生を決めていってほしい」と述べ、授業を締めくくった。



「持てるだけの選択肢を持つ」と遊道社長

第5回 富山県立高岡南高等学校

令和2年10月20日(火)、小川万里絵氏(日本銀行富山事務所長)が富山県立高岡南高等学校において、1学年計41名を前に「金融経済における日本銀行の役割」をテーマに課外授業を行った。

小川事務所長ははじめに、日本銀行の組織と役割を説明し、経済の持続的な発展のためには物価の安定が必要であり、物価が安定していない状態では、金融市場へ資金を供給・吸収するオペレーションなどの手段により金利の誘導等を行い、景気の悪化や過熱に対応していると、日本銀行の金融政策について理解を促した。

次に、新型コロナでは、個人消費の減少や雇用・所得環境の悪化、設備投資の減少などの国内要因のほか、海外要因として、インバウンドの減少や輸出の減少、サプライチェーンの寸断など、日本経済に様々な影響があったことを説明し、企業等の資金繰り支援や金融市場の安定確保な

どの日本銀行の政策対応を紹介した。

さらに、経済・物価情勢の判断材料である実質GDPやIMF世界経済見通し、実質輸出入、個人消費、設備投資などの各種指標の動向を踏まえたうえで、わが国の経済・物価の現状と先行きの展望を確認した。

最後に生徒の質問に答え、「高校3年間はあっという間だが、人生を振り返ってみた時には大きなウェイトを占める意味のある期間。今しかできないこと、やりたいことに力いっぱい取り組んでほしい」とエールを送り授業を締めくくった。



「経済のグローバル化で英語力が求められる」と小川事務所長

第6回 富山市立岩瀬中学校

令和2年11月2日(月)、牧田和樹氏(株牧田組取締役社長)が富山市立岩瀬中学校において、全学年301名を前に「よく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、AIはデータから予測するが、人間はそれ以外の要素も踏まえて判断できることを示し、「AIは確率論であり万能ではない。データから類推し最適を導き出すことはできても、それが必ずしも正しいとは限らない」「世の中のほとんどの問題は正解のない問題であり、AIでは解決することができない」と説明した。

そして、正解のない問題を解くには、問題の本質を見極めることが必要である。なぜ問題となっているのかを理解するためには、お互いにその理由を話し合える関係を築くことが不可欠であり、相手に対する思いやりの気持ちをもつことが大切であると説いた。

さらに、相手と対話してよりよい解決策を見つけ出すには、知識が必要であり、豊富な知識を組み合わせることで創造力が生まれるとしたうえで、「創造力によって奇跡は起きる。常識では考えられないことを生み出せるのは人間だけであり、AIでは奇跡は起こせない」と強調した。

最後に、今、学校で学んでいることはすべて知識となり、将来、正解がない問題を解くときに役に立つ。勉強も部活動も無駄ではない、意味のあること。「よく生きるために、充実した学校生活を送ってほしい」と激励して授業を締めくくった。



「たくさんの知識と経験を積み重ねよう」と牧田社長

第7回 滑川市立滑川中学校

令和2年11月4日(水)、福崎秀樹氏(株フクール代表取締役)が滑川市立滑川中学校において、2学年176名を前に「AI時代を生き抜く!」をテーマに課外授業を行った。

福崎代表ははじめに、これから生きていく時代は「魔法の時代」である。科学技術の指数関数的な進化により、今ある仕事の約半分はAIで代替可能と言われているが、職業がなくなるという話は本質的には意味がなく、一人一人が人から求められる存在であり続けられたいとしたうえで、「新しいものを生み出したり、チャレンジすることは人間にしかできない。AIでは人の心を動かすことはできない」と語った。

続けて、考え次第で人生は変えることができると説明。「自由」とは「自らをもって由となす」であり、自分の生きたい人生を自分が選ぶことができる。人生は自在であり、何をしてもいい。「未来は自分の手で引き寄せることがで

きる」と強調した。

そして、これからのAI時代を生きていくには、普遍的な人間としての強さが大切であり、「自分で変化を生み出す」「問題を探す」「自らの価値観に従う」といった力が必要になると説いた。

最後に、好きな言葉「明德を明らかにする」を紹介し、自己の最善を尽くし、本気で取り組むことで、未来は引き寄せられる。「未来を不安がる必要はないし、過去に捉われる必要もない。今この瞬間を大切に生きてほしい」と呼びかけ授業を締めくくった。



「未来は君たちの手の中にある」と福崎代表

第8回 氷見市立北部中学校

令和2年11月9日(月)、高瀬幸忠氏(株スカイインテック専務取締役)が氷見市立北部中学校において、2学年108名を前に「社会の一員として働くこと」をテーマに課外授業を行った。

高瀬専務ははじめに、AIやロボットの活用により、いろいろな仕事に変化、発展し、新しい仕事に生まれ変わっていく。「今あるものが必ずしも最善だとは思わず、積極的に改善や改革を行い、より優れた新しいものに変えていくことが必要である」と述べた。

続けて、ドイツでは10歳で将来の進路を選択することを紹介し、自身は10歳の時に両親と米国に転居する話を断り、富山で祖父母と一緒に暮らす選択をしたことが得難い経験につながったと振り返った。そして、これから様々な局面で「未知の選択」を行うことになるが、人生をより良く生きるためには、選択の質を高めることが大切であり、「自分の潜在能力を解き放ち、いろいろな経験をし、良い

選択をして、いい人生を創り上げてほしい」と語った。

さらに、働くということは、必要とされること。自分の価値を世に問う姿勢を持ち続けることが大切であり、働くことを通して、感動を積み重ねて豊かな人間になっていくことが重要であると説いた。

最後に、「Be daring, Be first, Be different (勇気をもって、誰よりも先に、人と違ったことをしよう)」という精神で、新しい世の中を創っていく主役になってほしいと述べ、全員で「Just try! (とにかくやってみよう)」と復唱して授業を締めくくった。



「世界を“あつ”と言わせよう」と高瀬専務

第9回 高岡市立志貴野中学校

令和2年11月11日(水)、市森友明氏(株新日本コンサルタント取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2年1組40名を前に「学習の目的を知って努力を楽しくしよう」をテーマに課外授業を行った。

市森社長ははじめに、「勉強はできるからいい、できないから悪いというものではない。勉強は最終的には将来の生き方や職業に関わってくる」とし、職業を实践するうえで必要な学力や知識を獲得することが学習の目的の一つであると説明した。

また、大学受験や就職試験など、次の段階に進むためにも学習は必要となることから、「職業までのプロセスをイメージすることが大切」としたうえで、「中学生で将来をイメージすることは難しいかもしれないが、学習することでイメージできるようになる。学習は将来の職業選択の幅を広げることになる」と説いた。

そして、仕事にも学習にも努力は必要だが、努力した

時間と成果は比例せず、努力してもなかなか成果が出ないことがある。しかし、停滞期の「成長の壁」で決して諦めず、さらに努力を続けることで、「ブレイクスルー」する日が必ずやって来ると強調した。

最後に、松岡修造氏の言葉「100回叩けば突破できる壁があっても、99回で諦めてしまう人がある。その人は今までの努力やかけてきた時間が無駄に終わってしまう」を紹介し、「あと1回の努力で成果が出るかもしれない。努力が成長に結びつくときが必ず来ると信じて、諦めずに努力を続けてほしい」と述べ、授業を締めくくった。



「学習と職業の関係を意識しよう」と市森社長

令和2年11月11日(水)、伊東潤一郎氏(アイティオ㈱取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2年2組34名を前に「働くことと幸せに生きること」をテーマに課外授業を行った。

伊東社長ははじめに、大人が「勉強なさい」と言うのは、大人になってから子どもの頃に勉強しなかったことを後悔しているからであり、「将来、自分がやりたいと思うことができるように、今からいろいろなことを勉強しておくことが大切。それが将来の選択肢を増やすことになる」と語った。

次に、ボルトとナットを用いたコマづくりの体験を通して、ものづくりの面白さを伝え、たうえて、「ものづくりは自分が楽しみ、相手も楽しませることができる。会社は作ったもので皆を幸せにできる。仕事をするとは人を幸せにすることである」と説いた。さらに、1トンの鉄は10万円だが、軽自動車は1～2トンの重量で約200万円となり、

鉄の10倍以上の価格で販売される。ものづくりは新たな価値を生み出すことだと説明した。

最後に、社会に出ると、「 $1 + 1 = \square$ 」という正解がある問題ではなく、「 $1 + \square = \triangle$ 」という一つだけではない答えを追求していくことが必要になるとし、「人生にはたくさんの道がある。自分が進む道の先がどうなっているかを知るためには知識が必要であり、いろいろなことに興味を持ち、様々な経験をし、そこで得た気づきを大切にしてほしい」と強調して授業を締めくくった。



「世の中の役に立ちたいと思うことが大切」と伊東社長

令和2年11月11日(水)、上田信和氏(砺波工業㈱取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2年3組36名を前に「将来の夢は？」をテーマに課外授業を行った。

上田社長ははじめに、「今の子どもたちの65%がまだ存在していない職業につくだろう」と予想されていることを紹介し、「今なりたい職業がなくても、これから新たな職業が次々と生まれてくる。いろいろな経験をする中で夢はどんどん変わっていいが、早く夢という目標を決めて、その目標に向かっていくことが自分のモチベーションアップにつながる」と説いた。

さらに、テクノロジーの進化により様々な情報ツールが加速度的に普及していることを説明し、時代の流れがどんどん速くなり、社会が目まぐるしく変化している中で、「時代の変化にどう対応していくかが大切である」と語った。

続けて、仕事をするうえでは、「社会人基礎力」と言わ

れる3つの能力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が重要であると、これらの力の基礎となる人間性や基本的な生活習慣、基礎学力、専門知識を身につけるため、今やるべきことに一生懸命取り組んでほしいと述べた。

最後に、「人生にはたくさんの選択肢があるが、自分で選んだ以上精一杯生きることが大切。自分の人生の中では誰もが主人公であり、夢・目標に向かってサクセスストーリーを描いてほしい」とエールを送り、授業を締めくくった。



「夢を持ち、夢に向かって努力しよう」と上田社長

令和2年11月11日(水)、戸塚健氏(富士通㈱富山支店長)が高岡市立志貴野中学校において、2年4組37名を前に「自分の弱さは武器になる」をテーマに課外授業を行った。

戸塚支店長ははじめに、大学時代に所属していた応援団での経験を振り返り、厳しい練習で極限状態に追い込まれた中で自分の弱さを知ったこと、そして、自分の弱さを認め、向き合うことで自分自身を成長させることができたとし、「自分の弱さを知っていることは自分の強みになる」と説いた。

続けて、「恥ずかしくてできなかったこと、やらずに後悔したこと」がないかを生徒に問いかけ、「自分が弱くてできなかったことも自分で素直に受け止めればいい。次に挑戦することが大事」と強調した。また、「自分ができないことを人はやっているかもしれない」という視点で見ると、人の見方も変わると語った。

さらに、「一つのことを一生懸命取り組んできた人は柔

軟性がある」としたうえて、今はまだ将来の目標が見つかっていなくても、何か打ち込めるものがいつか必ず見つかる。そのタイミングを逃さないでほしいと述べた。

最後に、これまでは言われた仕事をこなせばよかったが、今の社会では自ら挑戦することが求められており、主体的に物事を考えていかないと自分の可能性を広げることはいできない。「自分で自分を磨き、自分の弱さを武器に変え、いろいろな可能性に挑戦してほしい」と激励して授業を締めくくった。



「自分の可能性は無限大」と戸塚支店長

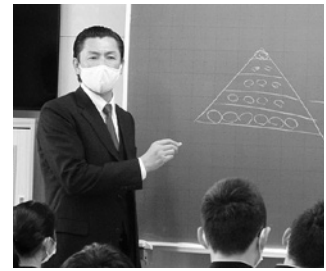
令和2年11月11日(水)、尾山謙二郎氏(マンパワーセキュリティ㈱代表取締役)が高岡市立志貴野中学校において、2年5組35名を前に「生きる力」をテーマに課外授業を行った。

尾山代表ははじめに、これからは、ピラミッド型の「しがらみ」の社会から、「個」が「つながる」社会に変容していくとし、嫌な組織には所属しなくていいし、つながりたい人と自由につながることができるが、誰も責任を取ってくれない。自己責任の時代となり、個が成熟していくことが必要になると語った。

次に、伝言ゲームを行い、順番に情報を伝えていく中で少しずつ言葉が変化し、最終的には元とは全く異なる内容になってしまうことを示し、情報は取り扱いが大事であり、自分の目で見て、耳で聞いたものを信じることで、そして、「誰が」話しているかではなく「何を」話しているかを読み解く力が大切であると説いた。

そして、夢を叶えるためには、実際に挑戦し最後までやり続けることが大事であり、挑戦すると失敗し挫折することもあるが、失敗や挫折は必ず糧になり、次のステップに繋がっていく。「やらずに後悔するより、やって反省する人生を選んでほしい」と強調した。

最後に、石田三成の「三献茶」の逸話に触れ、「仕事に貴賤はない。どんな仕事にも誠実に取り組んでほしい」と述べたうえで、「一人一人に価値がある。信念をもって、自分にしか成し得ないことに挑戦してほしい」と激励して授業を締めくくった。



「難が無いのは“無難”、難がある人生は“有難い”」と尾山代表

第10回 富山市立山室中学校

令和2年11月13日(金)、遊道義則氏(㈱ユニオンランチ取締役社長)が富山市立山室中学校において、2学年197名を前に「働くということ、生きるということ。～目標を達成する習慣をつけよう～」をテーマに課外授業を行った。

遊道社長ははじめに、言葉の不思議さと大切さに触れ、「私の夢は〇〇になることです」のように、自分の目標を具体的に決めること」「それを言葉に出して発信すること」が重要であり、「明確に決めて取り組むのとそうでないのでは成果が大きく異なる」と強調した。

次に、この先の人生は大小さまざまな選択の連続であり、その都度最善の選択をしながら自己実現を図り幸せを追求していくものであるとし、これを実現するには気付かなかったことに気付くなど積極的に自身を成長させること、今の自分を卑下せず今後の可能性を信じるのが大切であると説いた。

さらに、「目的は追求するもの」「目標は達成するもの」との違いを述べたうえで、人生の目的を早く見つけた方が目標の設定がしやすいこと、全ての結果(Have)は、ある行動(Do)によってもたらされ、その行動はあり方(Be)の影響を強く受けるとし、これらのバランスを取ることが大事であると語った。

最後に、「何でも最初からできるものではない。少しずつできるようになるまで、知識を蓄えるとともに経験を積み重ねられるよう、一生懸命に取り組んでほしい」とエールを送り、授業を締めくくった。



「『絶対に目標を達成する』と固く誓うことが重要」と遊道社長

第11回 富山市立北部中学校

令和2年12月2日(水)、山野昌道氏(㈱チューリップテレビ取締役社長)が富山市立北部中学校において、1・2学年324名を前に「自分の夢の見つけ方」をテーマに課外授業を行った。

山野社長ははじめに、「なぜ働かなければならないのか」を生徒に問いかけ、「社会は皆で作るものであり、働くということは社会を作っていく一員になることである」と説いた。

そして、「将来、何になるのか?」とこれから真剣に考える時がくるが、自分のやりたいことは簡単には分からないし、夢も簡単には決まらない。それでも何かを見つけたと思うなら、「考えるだけではなく行動し続けることが必要であり、一日一日を一生懸命に生きるしかない」と強調した。

さらに、努力しても成功するとは限らないが、成功するには努力が必要であるとしたうえで、苦勞のないところに

やりがいはなく、辛く厳しい体験が感動に繋がっていく。「苦勞や努力こそがやりがいであり感動そのものである」と語った。

最後に、夢を見つけるためには、「知識を得る」「大人に聞く」「やってみる」「目の前のことに真剣に取り組む」ことが大切であると、「人生は選択の連続だが、選択に迷った時、どちらが正しかったかは一生分からない。選んだ方が正解になるよう、その後の人生を作っていくことが大事であり、将来のために充実した一日一日を積み重ねてほしい」と述べ、授業を締めくくった。



「夢はどんどん変わっていい」と山野社長

第12回 富山県立富山高等支援学校

令和2年12月18日(金)、森藤正浩氏(正栄産業(株)代表取締役)が富山県立富山高等支援学校において、全学年51名を前に「よりよく生きる 働くとは」をテーマに課外授業を行った。

森藤代表ははじめに、「仕事の目的はお客様に喜ばれることであり、人生の目的は誰かに喜ばれること」としたうえで、人生の3分の1の時間を占める仕事を、お金を得る手段として嫌々やるのはもったいない。「仕事には面白い仕事もつまらない仕事もない。仕事を面白くする考え方とつまなくする考え方があるだけだ」と語った。

続けて、今の自分が存在するのは、両親や祖父母が命のバトンを途切れることなくつないで来てくれたからであり、今ここにいることへの感謝を忘れずに、人に喜んでもらえるよう、人の為に尽くすことが大切であると説いた。

そして、稲盛和夫氏の人生の方程式「人生の結果＝能力×意欲×考え方」を紹介し、能力や意欲とともに、人とし

ての正しい考え方をもつことが何よりも大切であるとした。さらに、毎日ほんの少しの努力でも積み重ねることによって確実に成長につながるとし、「努力は自分を裏切らない」と強調した。

最後に、「今日という1日は人生の中で二度とない。365分の1日で生きるのではなく、1分の1日を大切にしてほしい」とし、「皆が何にでもなれるし、どんなことでも出来る。人生の可能性は無限に広がっており、自分の力を信じて、“今から、ここから、自分から”始めてほしい」と激励して授業を締めくくった。



「誕生日は両親に感謝する日に行きましょう」と森藤代表

第13回 富山市立速星中学校

令和3年2月9日(火)、遊道義則氏(株ユニオンランチ取締役社長)が富山市立速星中学校において、1学年333名を前に「働くということ、生きるということ。～目標を達成する習慣をつけよう～」をテーマに課外授業を行った。

遊道社長ははじめに、言葉の不思議さと大切さに触れ、「〇〇になれば」と希望するのではなく、「〇〇になる」と言い切ることで、実現することや目標につながるから、出来るだけ早く自分の夢を具体的に決めることが大切であるとし、我々は自分の発する言葉によって制御されており、肯定的に物事を考えることが大事であり、意図を明確にし言葉で伝えることで、より有意義な時間を過ごすことができる」と説いた。

次に、人生は様々な選択の連続であるが、常にそのとき可能な最善の選択をしているのであり、結果がどうであろうと自分を責めたり後悔してはいけない。「大事なことは、そのことにどんな前向きな『意味付け』をするかであり、その『習慣』をつけることである」と強調した。

そして、「目標は達成するもの」「目的は追求するもの」と違いを説明したうえで、人生の目的を早く見つけた方が目標の設定がしやすいが、目的が見つからなくても、目標を達成していくうちに方向性は見いだせる。

「目標は『絶対に達成する』と固く誓い、達成するまで挑戦し続けることが大事である」と語った。

最後に、「自分の人生、誰かが何かをしてくれると思わず、自分で何が出来るかを考えてほしい」とし、「素晴らしい将来が待っている。自分に自信をもって、今からどんどんチャレンジして行ってほしい」と激励し、授業を締めくくった。



「自分の可能性を信じよう」と遊道社長

第14回 氷見市立比美乃江小学校

令和3年2月18日(木)、牧田和樹氏(株牧田組取締役社長)が氷見市立比美乃江小学校において、5・6学年129名を前に「よいチームの作り方～リーダーとフォロワーの在り方～」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、教室で自分の前の席や後ろの席の友達に消しゴムを貸す場面での渡し方を例に挙げ、相手を使いやすい向きで渡すことが大切であり、それが相手を思いやることであると説明した。

そして、低学年の頃は「自分が～、自分は～」と自分のことが考えの中心だったのが、高学年になると自分以外の人のことを気かけたり気遣えるようになり、次第にまわりのことが見えるようになってくる。「まわりが見えることで、相手を思いやることができ、対応できるようになる。それが大人になるということである」と説いた。

次に、「チームとは何か」と児童に問いかけ、「チームを作るには目的があり、一人でやってもみんなでやっても効果が同じならチームである必要はない。一人でやるよりも

大きな成果や結果を達成できるからチームを作るのである」としたうえで、「ただチームを作るだけでは効果は発揮できない。チームのメンバーがそれぞれ『思いやり』をもって行動することが大切であり、相手を思いやるには『まわりが見える』ことが必要である」と強調した。

最後に、「学校の勉強は、中学生、高校生とどんどん大人になっていった時に『まわりが見える』ように、必要な知識や力を身に付けるためのもの。今の学びは全て大人になるための基礎となる大事なことであり、日々の勉強に一生懸命取り組んでほしい」と述べ、授業を締めくくった。



「思いやりの気持ちを忘れないでほしい」と牧田社長

第15回 富山県立富山北部高等学校

令和3年3月5日(金)、牧田和樹氏(株牧田組取締役社長)が富山県立富山北部高等学校において、1学年239名を前に「AI時代によりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、計算式は誰がやっても同じ答えになるが、社会に出ると、人によって答えが異なる問題に多く直面するとし、その際、AIは答えを考えるガイドになるかもしれないが、データに基づく確率論であり、必ずしも正しいわけではないと説いた。

そして、我々は自分と自分以外の他者との関わりを前提とした社会で生きており、人と人との間につながりのある人間社会では相手のことを考えることが大事だが、AIにはそれができない。「これから、AIができることとAIではできないことに社会は分かれていく。AIと同じことをやるような人生を歩んでいては、よりよく生きることはできない」と訴えた。

さらに、「自分以外の人との関係をどれだけ良くするか

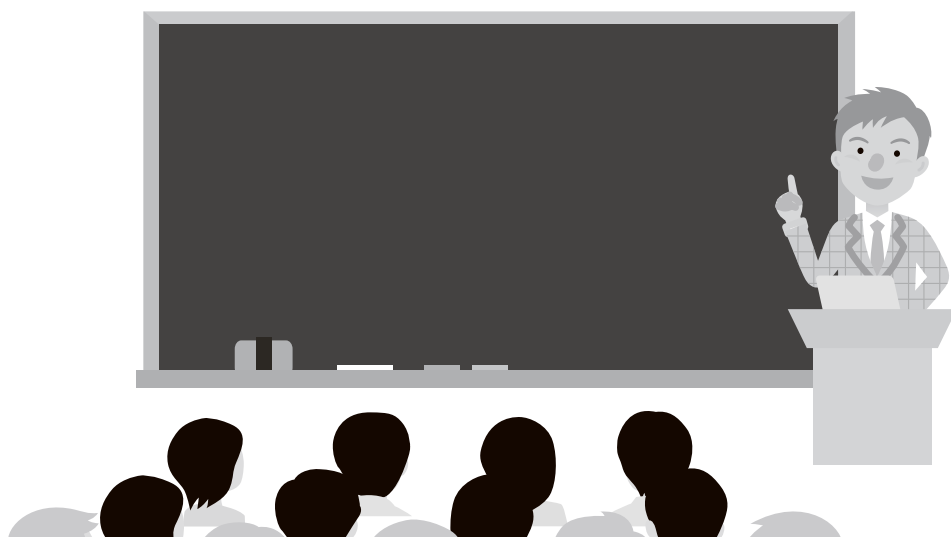
によって、人生は大きく変わる」としたうえで、人間の関係には、興味、好意、共感、信頼、尊敬という段階があり、人間社会において人間関係を良くするには周りの人を思いやることが大切。「より多くの人とこのプロ

セスを築いていくことで人生は豊かになり、AIに勝つことができる」と強調した。

最後に、「思いやりを実践するには力が必要であり、知識がないと対応することはできない。今、学校で学んでいることは、これから社会に出ていろいろな問題を解決するために必要な知識であり、それが人生の礎となり将来に繋がっていく」と述べ、授業を締めくくった。



「AIにできないことを見つけよう」と牧田社長



「働くことの中に人生を豊かにする感動がある」

中尾特別顧問が富山県教育委員会 小・中・県立学校3年次校長研修会で講演

令和元年7月26日(金)、富山県教育委員会の「小・中・県立学校3年次校長研修会」が富山県民会館で開催され、中尾哲雄氏(㈱アイザック取締役相談役)が「働くということ」と題して県内の小・中・県立学校の校長約48名を対象に講演を行った。

中尾相談役は、はじめに、働き方改革は単に働く時間を短くするだけでは失敗する、それによって作り出した時間で何をするかという議論が必要であるとし、仕事以外に何をするか、ボランティア活動や勉強、家族との触れ合い、趣味などにより自分にとって新しい価値を見い出すことへの意識を持たなければならないと語った。続けて、働くことの目的で最も大事なものは自分を高めるということで、人間を磨き人間性・人格を高めることに生きがいを見い出すことであると説いた。

さらに、ワーク&ライフバランスという言葉が楽しいライフに対して辛いワークというイメージを作り上げているとしたうえで、「労働を嫌い、嫌なこととして回避しようとしている層が増えており、働くことの根源的な価値を見失っている人が多くなってきている。しかし、働くことの中に感動があり、それが人

間を高め人生を豊かにする。バランスを取ることは良いが、働くことを嫌なものとして「どんな校長になるか、緒について位置付けてはいけな てもいい頃」と中尾相談役。人生は確かに苦難の連続であるが、希望溢れるものにするため、働くことの中に感動があることを忘れないでほしい」と強調した。

また、管理職に求められるのは人間的な魅力であるとし、「人がついてくるリーダーの資質として、知性、説得力、持続力、体力、さらにこれらのベースとしてやさしさがなければならない」と語り、そのためには、絶えず異質に接して視野を広げること、人脈を広げること、心身を鍛えること、公私を区別することが重要であると述べた。

最後に、ヘーゲルの「迫り来る黄昏の中にミネルバのフクロウは飛び立つ」という言葉に触れ、「フクロウは知恵の象徴であり、知恵の象徴は学校の教員である。混沌とした世の中に飛び立っていくのが教員の役割である」と激励し講演を締めくくった。



「働き方改革」について話す
上田社長

「中小企業における働き方」

砺波工業(株)上田社長が富山県教育委員会 県立学校校長研修会で講演

令和元年8月27日(火)、富山県教育委員会の「県立学校校長研修会」が富山電気ビルディングで開催され、上田信和氏(㈱砺波工業取締役社長)が「中小企業における働き方」と題して県立学校の校長約65名を対象に講演を行った。

上田社長はまず働き方改革の必要性に触れ、人手不足や働き方の多様化という社会環境の中、働き方改革は企業のイメージアップと人員確保のために必要であるが、同時に生産性を向上させ、利益を追求していくことも必要であると説いた。

続いて、自社の取組を事例とし、実際の取組におけるヒントを示した。社員と話をし会社の問題点を抽出した結果、社員間のコミュニケーションにおける問題点、環境による問題点、物理的・地理的な問題点が挙げられ、それらの問題をハード面・ソフト面の問題に分類して、それぞれ対応したことを紹介した。

ハード面での対応として、新社屋を建設した際

に全部署をワンフロアーに集約したり、社員が使用するデスクを固定しないフリーアドレスを採用したりすることで、社員同士が互いの仕事の様子を見ることができるようにし、働き方を考え直すきっかけとした。

ソフト面での対応では、スマートフォンの支給、コミュニケーション手当の創設、メンター制度の活用、定期的なキャリアアップカウンセリングなどにより社員同士のコミュニケーションを取りやすくし、社員の健康管理を行うことで社員のモチベーションアップを図った。

そして、企業における働き方改革は、組織のあらゆる人を活性化させ良い商品をお客様に納めて利益を出すことだが、教育現場においてはお客様は社会であり、商品は社会に喜んでもらえる学生の輩出ではないだろうか語り、そう考えることで学校での働き方改革の目的が見えてくると示唆した。最後に、先生方のモチベーションを上げるためには、教師という職業に誇りと自信を持つことができるような対応が必要であると述べ、講演を締めくくった。

「生徒に伝えてもらいたいこと」

山野昌道氏が中・高進路指導研修会で講演

令和元年10月3日(木)、山野昌道氏(株チューリップテレビ取締役社長)が、富山県教育委員会が開催した中・高進路指導研修会において、進路指導主事約70名を対象に「企業が求める人材、3つのポイント」と題して講演した。

山野社長ははじめに、なぜキャリア教育が求められるようになったのかを説明したうえで、なぜ働くのかを伝えられるようにすること、どんな企業でも求めている共通の資質とは何かを理解することの必要性を説いた。

そして、児童・生徒は社会に育てられている立場であるが、ここで学んだことを活かし社会を作る役割を担うことが働くということであるとし、なぜ働くかといえ、皆で幸せな社会を作りあげていく必要があるからであると述べた。

続けて企業が求める人材の資質には、「知識、スキル」、「性格、考え方、取組む姿勢」の2つの側面があると考えられるが、現在の社会環境や想定される未来社会の状況から考えると鍵となるの

は後者であり、人間でなければできないことという観点が重要になってくると話した。

さらに、民間企業の特質として、「チームで動く」「この先どうなっていくか全く分からない」「社会の役に立たなければ生き残れない」を挙げつつも、実はこれは企業に限らず、あらゆる組織で同様であるとし、チームプレーができ、未来を切り開くことができ、正しい倫理観を兼ね備えた人材、つまり「誠実さ」「熱意」「行動力」の3つを身に付けることが大事であると語った。

最後に、①逞しく育てること、②未来は希望に満ちあふれているということを実感させること、③努力することの素晴らしさを伝えることの3つを挙げ、これらを先生方には是非お願いしたいと強調して講演を締めくくった。



求められる資質は企業でも学校でも変わらないと山野社長

「これからの時代で求められる力を育むには」

福崎秀樹氏が高岡市小中学校教務主任会で講演

令和元年11月13日(木)、福崎秀樹氏(株フクール代表取締役)が、高岡市小・中学校教務主任会において、約50名を対象に「AI化が進む社会で必要とされる人材」と題して講演した。

福崎代表ははじめに、現在の社会では様々なものがものすごいスピードで変化していると、「企業では5年前に提供していたサービスが既に陳腐化しているものもある。教育においてもプログラミングの必修化やアクティブラーニングなど、現場も保護者も混乱しているのではないかと」と指摘した。

次に、AI(人工知能)とは何かをあらためて知ってもらいたいとして、「AIは膨大かつ様々なデータを基にパターンやルールを抽出していく。現在はあらゆるところにセンサーから多くのデータが集まるようになっており、AIは驚異的なスピードで進化している」と語り、これらは決して大手の企業だけのものではなく、テクノロジーの民主化が進み我々にとっても身近になってきてい

るとし、AIそのものを作り出すのではなく、今ある課題をAIだったら「まずは先生自身が実践すること」のようにできるかといから始めましょう」と福崎代表の発想が必要になっていくのではないかと述べた。

さらに、AIで代替可能な仕事と代替困難な仕事の違いはどこにあるのかを問ひかけ、AIに取って代わられる「仕事」があるのではなく、取って代わられる可能性のある「人」がいるのではないかとしたうえで、「VUCA時代」にあって、「人」をどのように育てるかを考えることが重要であると説いた。

そして、こうしたことを踏まえた自社での社員教育の方針を紹介した後、これらが正解かどうかは分からないとしつつも、まず自分自身が努力し実践することが必要であるとし、そこから何か新しいことを発見することがあるのではないかと強調して講演を締めくくった。



「子どもたちが社会に飛び出す力を育むために」

福崎秀樹氏が富山市中堅教諭等資質向上研修会で講演



令和2年4月28日(火)、福崎秀樹氏（㈱フクール代表取締役）が、富山市中堅教諭等資質向上研修会において、「VUCA時代を生き抜く人財を育む」と題して講演した。今回の研修会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで開催され、中堅教職員約50名が学校や在宅勤務で受講した。

福崎代表はじめに、科学技術の指数関数的な進化等により、社会を取り巻く環境は複雑性を増し、何が起こるか分からない、将来の予測が困難な時代になっている。「VUCA時代」と言われる現代社会においては、過去の経験は役に立たず、今までの延長線上では物事が考え難くなるとし、経営者が求める人材・能力も、高度成長期の工業化社会やその後の情報化社会とは異なり、さらなるアップデートが必要になると指摘した。

次に、今ある仕事の約半分がAIで代替可能と言われており、また、今の子どもたちの65%は現在存在していない職業に就くとも予想されている。AIで代替可能な仕事と代替困難な仕事の違いが何なのかを考えることが大事であり、人間

には、様々な既知の情報をつなぎ合わせて新しい情報を生み出す力（汎化能力）があること、そして「人との関わりの中で人間力が磨かれる」と福崎代表がAI時代でも活躍できるよう、人間的知性を磨くことが重要であり、これが自分で困難を乗り越えていける力になると説いた。

さらに、社会がものすごいスピードで変化しPDCAサイクルでは対処できない状況下では、OODAループを高速で回すことにより変化に対して臨機応変な対応が可能になるとし、これを実践することで、「VUCA時代」に生きていく力を育めるのではないかと述べた。

最後に、好きな言葉「常の勝敗は現在なり」を紹介し、この一瞬一瞬を一生懸命に生きることが未来を創造することにつながり、皆が今できる最善を常に考えてアクションしていくことでいい世の中を創っていけるのではないかと述べ、講演を締めくくった。



「子どもたちの思いやりの心も醸成しよう」と牧田社長

「信頼と対話で人を動かす」

牧田副代表幹事・富山県中堅教諭等資質向上研修で講演

令和2年10月28日(水)、牧田和樹氏（㈱牧田組取締役社長）が富山県中堅教諭等資質向上研修において、教員20

名を対象に「リーダーシップを解き明かす」と題して講演を行った。

牧田社長はまず、経営者としてのリーダーシップは戦略や方針を策定することではなく、社員が方針に従い行動することで結果を出すこと。つまり、リーダーシップとは「人を動かす」ことであるとしたうえで、我々は自分以外の他者と関わって生きており、人と人がつながって社会はできている。人と人之间には「間（ま）」があるから人間社会であり、この中で、人を動かすことがリーダーシップにつながっていくと説明した。

そして、人間社会の「間」を支配し、人間関係に影響を与えるものには、言葉や感情、信頼など様々なあるが、すべて「心」が関与している。関

係を築いていくうえで一番大事なことは、自分だけでなく相手にも必ず心があるということ、いかに相手を思いやり相手の価値を認めることができるかであると強調し、「史記」の豫譲の言葉「士は己を知る者の為に死す」（自分の真価を認めてくれる人のためには、命さえ惜しまずに尽くす）を紹介した。

続けて、人間関係を確立するプロセスは「興味→好意→共感→信頼→尊敬」とあるが、信頼以上の関係ができていれば人は言うことを聞いてくれる。まずは、信頼を勝ち取ることが重要であるとし、人を動かすには、人間的信頼と能力的信頼を備えたうえで、情緒的対話と論理的対話により共感と納得を得ることが必要であると説いた。

最後に、「世の中には反対の問題がいろいろある。「正」と「反」の対立関係から、より高次の「合」を導く「アウフヘーベン」のように、自分と相手の価値観が違ったとしても、相手を深く思いやる心を持って、違う価値観を合わせていくことが大切である」と述べ、講演を締めくくった。

「失敗を恐れてはいけない」 寺下利宏氏・富山中堅教諭等資質向上研修で講演

令和2年11月10日(火)、寺下利宏氏(㈱ソシオ代表取締役)が富山中堅教諭等資質向上研修において、教員23名を対象に「生存率2%の事業運営」と題して講演を行った。

寺下代表はまず、当会教育問題委員会の活動に触れ、急激に変化する時代の中で、次代を担う子どもたちは、「自ら課題を発見し解決する力」「コミュニケーション力」「リーダーシップ」「向上心」など人生を自ら切り拓く力を備えた人間になることが重要であり、コロナ禍の中で、こういった力がますます必要になるのではないかと述べた。

次に、「ハウレンソウのおひたし」を紹介し、部下からの「報告・連絡・相談」に対し、上司は「お(怒らない)・ひ(否定しない)・た(助ける)・し(指示する)」で返すことでコミュニケーションが円滑になるとし、リモートでのやり取りなど、直接伝えることが難しい時代では、なおさら意識することが大事であると説いた。

そして、企業の存続率は、1年で60%、3年

後30%、10年後5%、30年後2%であることを説明。浅野

総一郎氏の「九転十「アイデアがあったら行動に移そう」と寺下代表

勝九敗」を紹介しながら、自社の創業の経緯、波乱万丈だったという30年を振り返り、失敗を重ねながら今の事業に辿り着いたこと、時代の変化やニーズを捉えなければ長続きしないこと、将来をしっかりと見据えて行動しなければならないこと、さらにこれからは、持続可能な企業を考えていくことが必要であることなどを話した。

最後に、子どもたちの未来のために、最前線で頑張っている先生方には広い視野に立っていただきたいとし、「我々経済人としても子どもたちの一番身近にいる先生方をしっかりとサポートし、社会全体で子どもたちの学びを後押ししていきたい」と述べ、講演を締めくくった。



「AI時代の教育に求められること」 牧田副代表幹事・氷見市立比美乃江小学校で講演

令和3年2月18日(木)、牧田和樹氏(㈱牧田組取締役社長)が氷見市立比美乃江小学校において、教員25名を前に「これからどのような子を育てていくべきか そのために学校・教師はどうあるべきか」と題して講演を行った。

牧田社長はまず、「教育七五三」について説明し、小学校で3割、中学校で5割、高校で7割が、授業について行けず学習内容を理解できていないと言われている。大学進学率が約5割である現在、大卒者の中にもこれらの者が含まれており、就職後、企業が再教育しているという現状を認識し、どう対処するかが問題であると訴えた。

続けて、コロナ禍により教育界でもデジタル化が加速しているが、AIの進化により、子どもの習熟度や理解度に応じて授業内容や学習する順番を変更するなど、一人一人に応じた学び方が可能となっており、学校や教師には授業だけではない力が求められている。「デジタル化やAIにどう対抗するかを考えなければならない。それがこれ

からの教育の根幹を支えるものとなる」と強調した。

そして、我々は「共感の時代、感性で子どもたちと向き合おう」と牧田社長

(ま)」が存在する人間社会に生きており、この間をコントロールするのが「共感」であるが、AIには感情や共感といった感性はなく倫理観もない。「AIに対抗するには、人に共感できる人間性を身に付けることが必要である」と語った。

最後に、「共感とは『知恵=知識×経験』があって生まれるものであり、知識と経験をストックしていくには、様々な分野、年齢の人と積極的に交流することが大切。それが子どもたちに伝える力となる」としたうえで、さらに、「目標を明確に決めて、論理的かつ情緒的に相手に伝えることでリーダーシップを発揮し、教育七五三の解消につなげてほしい」と述べ、講演を締めくくった。



年 月 日

富山経済同友会 御中

(学校名)

(校長名)

課外授業講師の派遣依頼書

下記のとおり貴会から課外授業講師の派遣を依頼します。

区 分	希 望 内 容	備 考
講 師 名	〔会社名〕 〔役職・氏名〕	
日 時	〔時 期〕 年 月 日 () 〔時間帯〕 : ~ :	第2希望 月 日 ()
対 象	〔学年〕 〔学級〕 〔児童・生徒数〕 〔会場〕	
実施内容	〔形式〕 授業 / 講演 / その他 〔テーマ・演題〕 〔ねらい〕	
連 絡 先	〔所在地〕 〒 〔TEL〕 〔FAX〕 〔E-mail〕 〔担当者職氏名〕	
そ の 他 参考事項		

(注) 参考となる資料があれば、適宜添付してください。

富山経済同友会とは？

経済同友会は、経済3団体（経済同友会、日本経済団体連合会、日本商工会議所）の一つであり、全国各地に44の経済同友会があります。

富山経済同友会は、昭和36年に経済人としての職能的立場から日本経済の進歩と安定に寄与し、併せて会員相互の啓発、親睦を図ることを目的に設立され、現在約420名の経済人が参加しています。

各地の経済同友会と連携を図りながら、現実の企業経営に密着した知識と経験を駆使し、自由な研究討議を重ね、経済人として積極的に意見を公表するなど、地域社会の経済発展ひいては日本の経済発展に努めています。

《活動概要》

- 委員会活動（研究、提言など）
- 講演会・セミナー活動（時宜を得たテーマで講師を招き、講演会、セミナー等を開催）
- その他（会員定例会、諸団体との交流など）